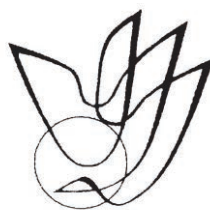


# シャローム



今日ダビデの町に、あなたがたのために  
救い主がお生まれになった。

(ルカによる福音2章11節)

2022年  
降誕祭号



絵 日曜学校の子ども

## 目次

— 出会い、つながり、一致する共同体 —

One for all, All for one みんなで力を合わせて

クリスマスメッセージ …… 2p

絆・バトンプロジェクト …… 8p

子どもたちのお祝い …… 6p

教会の動き …… 10p

世界の教会(アフリカ・ケニア&タンザニア) …… 7p

# イエスさまを迎える

## 祈りの花束

司祭団より



### ◆ビジュ キシャケール 神父



3年目のコロナ禍でのクリスマスとなりました。皆さま、ご降誕おめでとうございます。

クリスマスは宗教を超えて祝われていますが、これは、幼子イエスがすべての人のためにお生まれになったということを表しています。

平和に生きることはすべての人が望んでいることです。けれども、毎年、何かの困難に直面しています。その中でも、クリスマスはすべての人に希望と喜びを与えています。この喜びを多くの人と分かち合っていて生きていくことが大切ではないでしょうか。

### ◆アドリアヌス ファニ 神父



この一年を振り返ってみると、私も愛する母を亡くし、その喪失感は大きいと感じています。母の最期をそのそばで家族と共に過ごすことができたのも皆さまのご理解があったからです。司祭団にも皆様にも感謝いたします。

聖霊のはたらきによって、母マリアから人としてお生まれになった幼子イエスのように、清く誠実な心をもって日々、歩むよう心がけましょう。

皆さん、クリスマスおめでとうございます。毎年、私達は救い主であるイエス様の誕生を記念するためにクリスマス祝

います。クリスマスは私達の生活に光、平和と喜びをもたらすものとして受け入れられています。

クリスマスの出来事は、神様が人間をとても愛していることを私達に教えます。

神様は人間の状況に非常に敏感です。イエス様は人間の家族に生まれ、人間の貧しさを感じました。

信者として、私達がクリスマスを理解する方法の一つは、他の人と繋がり、そこにある社会的現実には敏感になることです。クリスマスとは、自分の持っているものの中で、何を差し出し、何を献げることができるかを考え、行動する日なのだと思います。

つまり、私達自身は一本のろうそくとして、この世を照らす光だということを確認する日なのです。その力は小さくわずかなものかもしれませんが、にもかかわらず、どんな小さな光でも暗闇の中では輝いています。そして、人々は暗い闇の中に輝く小さな光に温かさや安心感や、安らぎや励ましや希望を見いだすのではないのでしょうか。私達も、たとえ小さな力、わずかな力だとしても、私達自身を輝か

し、暗闇の中に光を灯し続けていきたいと思えます。また、クリスマスを、私達が愛をもって他の人と分かち合う機会にできますように。

## ◆ボスコ マニマラ 神父



「いと高き所には栄光、神にあれ。地には平和、御心に適う人にあれ。」

ルカ2章14節

皆様、いよいよクリスマスです。メリー・クリスマスと神様の豊かな祝福をお祈りします。

私たちが知っているように、クリスマスはイエス・キリストがすべての人間に対して、彼の計り知れない愛を示すイベントです。イエス・キリストは、謙虚さと神様への信仰をもって、罪を悔い改めるよう、私たち全員に勧めています。この文脈で、私は、ルカ福音書2章1節から14節を振り返りたいと思います。

この福音書では、クリスマスの喜びと平安を経験するという大きな特権を持って

いたヨセフ様、マリア様、羊飼いたちの姿に出会えます。彼らは、社会の中で、金持でも権力者でもありませんでした。しかし、彼らは神様の力と栄光を謙虚に信じ、精神的に豊かでした。こうして、彼らはクリスマスと喜びと平安を真に体験する善意の人となったのです。

皆様、ヨセフ様、マリア様、羊飼いたちから学び、謙虚さと神様への信仰の賜物を祈りましょう。そうすれば、私たちもクリスマスと真の喜びと平安を体験する善意の人になります。

## ◆荒田 啓示 神父



先祖代々ドラゴンズブルーの血を受け継ぐ私にとって、立浪新監督が就任した今シーズンは、期待に胸膨らませて始まった1年でありました。2月のキャンプインからペナントレース開幕まで、私はローマに滞在しておりましたが、心は沖縄・北谷一軍キャンプ地にあり、どうにか低迷期を脱

するシーズンとなるよう祈っておりました。しかし、結果はご存じの通り。現有戦力の底上げをして優勝することを実現した落合元監督のようにはいかず、「人を育てること」がどれだけ難しいかを改めて感じさせられた1年となりました。

これはスポーツ選手に限らず、どんな世界にも共通して言えることだと思います。自分が成功したから、他人も同じようになれば成功できる、とは限りません。それぞれの「人間」といかに向き合っているか、これからの立浪監督の手腕に期待しつつ、自分自身の生き方においても、気を付けなければならぬと感じました。

クリスマスは救い主がこの世に生まれたことを祝います。神が自分の大切な御子を、全ての人間のために救い主としてお与えになった、それほどに神が人を愛し、大事に思ってくれていることを私たちは理解し、感謝しましょう。そして、また我が中日ドラゴンズにも救い主となる選手が生まれることを切に願っています。

## ★後藤 文雄 神父



### 原典版「聖しこの夜」

「聖しこの夜」原典版LPレコードを発見したのは、今から40年ほど前のことであった。月曜日になると、よく秋葉原のレコード店めぐりをした。LPレコードを次から次へと、まるで雑誌をめくるようにパラパラと探す。といっても、目当てのあるわけでもなくめくるのも楽しい。時にはすばらしいジャケッに出会うこともある。ジャケッにはほれこんで、中を確かめないうえ買ってしまったこともあった。そんなある時、「聖しこの夜」のLP盤を発見した。ギター一本の伴奏で、テノールとバスの合唱である。

それ以後、私はクリスマスにひとり静かに自宅でこれを聞いて楽しんだ。それから20年もたつてからだろうか。同じ盤でCDが発売された。さっそく三枚、購入した。

LP盤を大切に保存しておくためだ。

1988年のクリスマスにオーベルンドルフ村の教会で「聖しこの夜」の聖歌がはじめて鳴り響いた。オーベルンドルフはザルツブルグの北15キロメートルにあるザール川沿いの寒村である。

当時、教会の助任司祭であったヨゼフ・モール神父は、クリスマスを目前に控えて途方にくれていた。パイプオルガンのウィンドチェスト（パイプに風を送る風箱）がねずみに食いちぎられていたからである。オルガンが鳴らないクリスマスなど考えられない。モール神父は、以前に作詩した詩を持って、村の小学校の音楽教師フランツ・ザビエル・グルーバー先生のところへ駆け込み、作曲を依頼した。そして一晩で出来上がったのが、この「聖しこの夜」だったのである。

ねずみのいたずらから思いもかけないこの名曲が生まれ、しかもそれが全世界くまなく歌われ、万人から愛される聖歌になるとは、誰も想像はつかなかったであろう。翌年の春、オルガン修理に来たカール・マウラッハが、譜面台でほりだらけの楽譜を見つけ持ち帰ったことから、広まっ

たという。

1854年、ベルリン王立聖歌隊よりザルツブルグのベネディクト修道院に作曲者の問い合わせがあり、グルーバー先生の子息が父親の手書きの楽譜を示してグルーバー作曲を証明したという。一時はハイドゥン作曲かと言われたこともあった。

一ぴきのねずみがひきおこした故障から名曲が生まれた。この原典版が録音される時用いられたギターは当の聖夜、テノールを歌いながらギターをつまびいたヨゼフ・モール神父愛用のギターであると解説ノートに記されていた。

ヨゼフ・モール神父の作詩の最後は次のように結ばれている。

静かな夜きよらかな夜

牧人たちの報せをもたらし

天使たちが唱えるアレルヤのなか

遠く近く楽の音はひびく

救い主イエスがここにおられる

救い主イエスがここにいらっしゃる

(浜田滋郎訳)

イエスさまを迎える祈りの花束

～信徒より～

19年12月に武漢で始まったコロナ感染は、20年2月のプリンセス号事件の頃にはまだ他人事でした。それが瞬間に我が事となり、第7波では、ついに私の勤務する病院もクラスターとなり、職員、患者さん共に多数の陽性者を出す騒ぎとなりました。医師として最前線にいても、何故か自分は大丈夫と自慢した矢先、自身も陽性となってしまいました。どんなに注意していても、感染を完全に防ぐことは難しいようです。

教会共同体の結束は、毎週のミサ、会合、各神父様の勉強会などで培われていました。やむを得ないミサ中止により、当たり前だった対面の交流が絶たれ、ネット配信ミサが日常の時期もありました。ようやく元に戻れそうになると次の波が来て、我が吉祥寺教会は決断早く、ミサを中止したため、クラスターに到らずに済みました。しかし、一方で、習慣化していた教会に行

く意欲がそがれてしまった事も事実です。第8波の足音が近づく中、今後の方針としては注意してミサをしましょう、になるのだと思います。

クリスマスは信者以外の方にもキリスト教に興味を持っていただけの日です。私たちが集まるのも信仰の前に、キリスト教に魅力を感じたからに他ありません。クリスマスを迎えるにあたり、収束しないコロナ禍にも私たちの教会が魅力的であり続けなくてははいけないと思うのです。

信者になって何回目のクリスマスを迎えるのだろうか？ 今年には色々なことが起こった年でした。遠い世界では戦争が始まり、近い世界ではコロナウイルスが未だ収束せず、ぐずついています。そんな中でも、クリスマスはやってきます。

マザーテレサは言っています。兄弟にほほえみかけ、助けの手を差し伸べるた

びに、それがクリスマスなのです。」  
与えられるクリスマスでなく、みんなが与えるクリスマスになるように願うと共に、悲しみと困難、不安に向き合っている人に希望がありますように。

クリスマスの装飾を見ると、華やかさや心がときめくと同時に、少し厳肅な気持ちになって何となく前触れのようなものを感じます。イエスのご降誕を待ち望む心のせいなのか学生の私にはまだよく分かりませんが、それでもクリスマスには煌びやかなだけじゃない質重感を感じ、聖歌を聴きたくなるようなしみじみとした心地にさせられます。日曜学校の生徒でいられるのは中学生までですが、自分が生徒だった頃の沢山の楽しい思い出が周囲から贈られたものだったことに大きくなってから気づきました。

一年を振り返ってみて、色々な変化のあった日曜学校ですが、子供の頃受け取ったものを目の前の子供たちに届けたいと思う気持ちは変わらず循環しているのではないかと最近になって思います。

子どもたちのお祝いアルバム

教会家族の未来の希望

★七五三祝福式

日本の伝統行事である七五三。多くのカトリック教会で子ども達の成長を神さまに感謝し、幸せを祈願する祝福式が行われています。吉祥寺教会でも11月5日、9時のミサで8名の子ども達が七五三の祝福を受けました。



荒田神父さまから祝福を受ける子どもたち  
いつも神様が共にいらっしゃいますように

★初聖体

11月20日、王であるキリストの主日に5名の小学生の初聖体式が行われました。初めて味わう小さな頃から憧れていたご聖体のお恵み。いつまでも忘れないですね！



ひとりひとり  
小さな手でしっかりと  
イエスさまの体を  
受けました



緊張したけれど、日曜学校でお勉強した  
拝領前の祈りを、ちゃんと神さまに聞こ  
えるように大きな声で唱えました



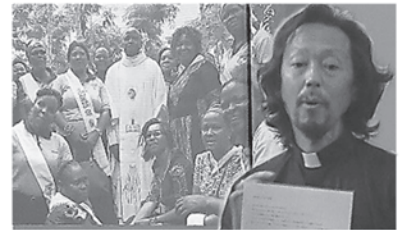
ビジュ神父様からお祝いにロザリオを  
いただきました

祝福された子ども達が、  
これからも光の中を歩んで  
いけるように、皆で見守り、  
育んでいきましょう。

■神言会  
ケニア・タンザニア管区での宣教  
〜アフリカが教会の希望〜



10月1日 佐藤 あらた 新神父講演会から



講演中の佐藤新神父。スライドはタンザニア人神父を囲むタスキ姿の神言会員を祈りで支えるグループのメンバー

ケニアは42部族が独自の言語、文化を持って暮らす多様性のある国です。英語とスワヒリ語を公用語とし小学校3年生から英語で授業をするので、都市部の特に若い人は英語が堪能です。キリスト教徒は60%、イスラム教が20%程の他、各部族の伝統宗教があり、中にはケニアで一番高いケニア山を神とする神道のようなものもあります。タンザニアはケニアより少し大きい国で130の部族があるらしいのですが、独立時に部族の違いを超えて一つの国となる政策を強く進めたため、部族をあまり意識することなく、ほとんどの人が部族語ではなく公用語のスワヒリ語を話します。両国共に独立後すぐから、野生動物の保護に力を入れ、観光が一つの大きな資源です。教皇様がこれからはアフリカが教会の希望とおっしゃっています。アフリカでは

ヨーロッパの宣教師からの物心両面の援助に頼るこれまでのキリスト教への受け身の意識を変えてきていて、召命に関しては自立に向け一歩踏み出していますし、経済的にはまだ頼りないながらも自立を意識しています。神言会は約40年前にケニア、約20年前にタンザニアで宣教を始め、昨年初めてタンザニア人が神言会司祭として叙階されました。2年前から私が住んでいる神学校は狭くなり、ケニアの首都ナイロビからタンザニアに移りましたが、建物は壁がありました程度でまだ住めないのので近所の教会に居候をしています。アフリカの教会では日曜学校の子どもたちが、



小さい宣教師たち。自分たちで出来ることを考え、実行しています▲

▼自分たちで企画から全てをこなした12教会合同の合宿。明日の教会は彼らのもの



若い人のこのような姿は頼もしいものです。私はそこに一緒にいて、うまくいって喜んでいる時もそうでなくてつらく悲しい時も神様が共にいて下さる、イエス様が本当の安らぎを下さることを皆が感じられるようにすることができればいいと思っています。私自身はうまくいかないことがあっても信者の方々の祈りを支えにがんばっています。

## 吉祥寺教会の地区割制度の 導入検討について

地区割準備委員会

今年7月、ビジュ主任司祭より委嘱を受け、地区割準備委員会がスタートいたしました。あくまでも、まだ準備段階ですが、司祭団、教会委員会、マリア会、ヨゼフ会からなる14名で地区割準備委員会を立ち上げ、7月より毎月1回開催してきました。

10月16日には10時半ミサ終了後、聖堂において一般信徒を対象に初めての地区割制度導入の説明会(意見交換会)を行ない、約60名の信徒の方に参加していただきました。

ビジュ主任司祭は吉祥寺教会の当面の大課題として、組織の見直し、信徒同士の居住地区ごとの交わりとお互いの協力、若い人への教会の魅力作りに対して強い決意で取り組もうとしておられます。私も大賛成で地区割準備委員会と共に全力で取り組んでいきたいと思っています。

実は16年前の2006年にも当時の宮

10月16日に初めて開かれた説明&意見交換会。多くの方々が積極的に参加し、お互いの声に耳を傾けました。



崎主任司祭より委嘱を受け、地区割を検討したことがあります。結果的には当時の諸事情により断念しましたが、当時の会議の中で宮崎主任司祭の「1カ月前に三鷹市の某所でひとり暮らしの老婦人の信徒が死後6日経って発見され、それが原因でカトリックの告別式ができなかった。地域での信徒同士の交流、助け合いの必要性を痛感した」との発言が、三鷹市に在住する私には、今でも心に焼き付いています。

吉祥寺教会にあっても、約2年半にも及

ぶ新型コロナウイルス感染症の影響により、さまざまな教会活動が制約を受けてきました。

見えてきた課題

…はたして教会として…

- 病弱・高齢・孤独等の弱者の信徒に対して、教会共同体としての助け合い、ケア等のサポート体制が機能しているのか？
- 信徒同士が教会共同体として親睦交流、霊的向上ができる環境にあるのか？
- 諸事情により教会と繋がることのできない約千人の信徒の方へのフォローは？
- 一人一人の信徒が教会を支えていく気構えとそれを実践するシステムがあるのか？

- カトリックを知らない多くの隣人に対して福音を宣べ伝える機能(信徒使徒職)ができているのか？
- 新しい信徒(受洗者、転入信徒)へのケアはできているのか？

これらのさまざまな現状の改善が必要と思われまます。

特に吉祥寺教会は東京教区の他の教会(小教区)に比べ在籍信徒数が多く、いろいろな課題の解決のための有効手段の一つ



が信徒の居住地域による地区割(グループ分け)と確信しております。

今までの地区割準備委員会で検討した地区割のイメージですが、地区(グループ)は10〜15地区、一地区(グループ)あたり約200〜300世帯になります。各地区の名称等はどうするのか、また各地区で具体的にどのような地区活動をしていくのかはこれから検討していきます。

地区割制度の導入を実現させていくには、個人情報取り扱い、地区リーダーの選出、各地区の運営、既存の各会活動の併存等、検討すべき多くの課題がありますが、より多くの信徒の方に参画していただき、理解を深めながらブラッシュアップして私たちの教会共同体の未来のために前進していきたいと思えます。

## 10月16日説明会出席者の声

★こういう説明会に参加できてよかったです。

★地区割は教会共同体の根幹にかかわることでもあり、色々な意見を聞く耳を持つてほしいし、信徒への発信を多くしていいほしい。

★本日の参加人数からは、まだ地区割への説明が必要だと感じる。

★制度運用によるメリットとデメリットをはっきり伝えてほしい。

★ヨゼフ会マリア会と、地区会、両方に所属していると、やることが増えて大変かもしれない。

★マリア会と地区が併存するとして、マリア会の地区は、必ずしも住所どおりではない。だから、地区割が始まった時、マリア会の地区も見直されるようだと思う。

★地区というのはすべての信徒が必ずどこかに所属するということなので、戸籍のようなもの。マリア会などは、サークル

のようなもの。だから、同じ活動にはならないと思う。

★地区割は、やるべきだと思う。司祭団方針としてやるならやると決めてしまった方がその後の進みが早いかもしれない。

★制度を始めてから、各地区がどうあるべきか、個人情報をどうしていくか、討議していくという案もある。

★地区に所属したくない人もいる。

★各信徒に、地区への帰属意思をもってもらうこと。運営会費を領収するなら領収する、とした方がよい。

★各地区のリーダーが何をすべきかが分からない。

★転入してきた信徒は、周りにだれ一人、知っている人がいない。地区割をきっかけとして、周りの信徒とつながることができたらよい。

★自分は無所属でも奉仕できていないので、地区割制度は良いと思う。

私たちの教会共同体の未来のために  
信徒一人一人の方のご理解と助言と  
ご協力をよろしくお願いいたします。



# 教会の動き

〈7月〉  
16日 公開ミサ中止

新型コロナウイルス感染症新規感染者数増加のため

〈8月〉

15日 聖母の被昇天ミサ（9時）

非公開、ミサライブ配信

28日 避難訓練

司祭団・教会委員のみ参加

〈9月〉

3日 財務委員会、教会委員会

4日 典礼奉仕者連絡会

6、9日 聖堂椅子修理、照明交換

10日 公開ミサ再開

受洗希望者対象入門講座、  
受堅者対象フォロアアップ  
講座開始

17日 日曜学校始業式

29日 地区割準備委員会

〈10月〉

1日 神言会 佐藤新神父講演会

財務委員会、教会委員会

2日 典礼奉仕者連絡会

4日 週日ミサ再開

火、金曜日6時50分からのミサを再開

16日 地区割制度意見交換会

22日 病者の塗油・癒しの秘跡

17時ミサ24名対象

23日 病者の塗油・癒しの秘跡

9時ミサ27名、10時半ミサ70名対象

30日

新典礼式文説明会（10時半ミサ後）

〈11月〉

2日 マリア会追悼ミサ・定例会

5日 五日市墓参

財務委員会、教会委員会

6日 典礼奉仕者連絡会

七五三（9時ミサ）

19日 地区割準備委員会

20日 初聖体式（9時ミサ）

26日 新典礼式文によるミサ開始

〈12月〉

3日 財務委員会、教会委員会

4日 典礼奉仕者連絡会

3、4日各ミサ後、ビジュ神父より「吉祥寺教会の将来に備えて」の話あり。

18日 日曜学校終業式

福島やさしい畑、野菜果物販売

## 病者の塗油・癒しの秘跡

### 教会委員

80歳以上の方を対象に10月22、23日の主日ミサの中で病者の塗油・癒しの秘跡を行いました。490通招待状を出し、計121名が聖体拝領の要領で、荒田神父様とアンディ神父様より病者の塗油を授けていただきました。両日共にお天気が良く、お出かけしやすい気候で何よりでした。

ご婦人の一人は、長いこと教会に來られなくて、家族の付き添いを頼んで、やっと来ることができ、偶然ずっと会えていなかったお友達数人にもお目にかかることができて嬉しいと涙を浮かべていらつしました。

もう一人の方はこの2年半、教会に來ることができず、ずっとオンラインでミサにあずかっていたそうです。体調が安定しないので、この日も来られるかどうか当日までわからなかったそうですが、久しぶりに教会に足を運



び、ご聖体をいただき、病者の塗油を受け、嬉しそうな様子でした。

ミサの後、若い頃のお話を聞かせて下さった方もいらつしやいました。家族の一人が病気で、仕事も忙しくしている時期に、時々、教会に来て、ほんの5分くらい座っていたことがあったそうです。とても疲れていて、あまり祈ることもできずにいたので、肩に背負っていた重荷のようなものが帰る時には無くなっているような経験をされていたそうです。やむを得ず欠席しなければならぬ方も多くいらつしやいましたので、その方々のためにもご健康と平和を願っております。

## 新典礼式文説明会

### 教会委員

新式文導入に先立ち、10月30日に先唱者を対象に説明会が開催され、50人が参加しました。説明会では、荒田神父よりミサの冒頭から最後まで、一文ずつ解説と注意がありました。長く使い慣れた言葉がつい出てしまいそうだと心配

する声もありましたが、先唱者は落ちていて対応していこうと、新しい式文を手を確認していました。

## 府中・五日市墓参報告

### 教会委員

11月5日(土)ビジュ神父様の運転するバスに乗って、参加者7名と教会委員2名で五日市へ墓参に行つてまいりました。午前9時に教会を出発し、11時30分頃到着、各自の墓地へお参りし、その後、皆さんで吉祥寺教会の共同墓地で、ビジュ神父様にお祈りいただき、一緒に聖歌を唄いました。帰り道、府中墓地も通りましたので、こちらへも立ち寄りしました。来年も気候の良いこの時期に、五日市と府中の両方への墓参ができたらと思っております。

また、府中墓地に関しましては、以前から雑草の問題がありましたので、11月4日に司祭団と教会委員長で雑草を抜いた後、より簡単に維持できるように、除草シートを全体に貼り、その上に砂利を敷きました。

五日市共同墓地



府中共同墓地



2022年度

キリスト教講座

曜日	時間	内容	担当者	対象	場所
第1・第3日曜日	11:30	キリスト教入門講座	司祭団	洗礼希望者	1階 中ホール
第2・第4土曜日	15:30	キリスト教入門講座	司祭団	洗礼希望者	1階 中ホール

※ 現在、洗礼希望者のための入門講座のみ開講中です。なお、今年度の受講申込みは終了しました。

◆クリスマスおめでとうございます

表紙は昨年の待降節に日曜学校の子ども達が描いた絵です。今年描いてくれた絵は掲示板に飾りました。

◆待降節第一主日から新しい式文を使ったミサが始まりました。クリスマスのミサでは新しいメロディのミサ曲を聖歌隊が歌います。新しい言葉、メロディを味わいながらミサにあずかりましょう。

◆聖歌隊は今、ABC三種の新しいミサ曲のうちのAを練習しています。グレゴリオ聖歌「キリアーレ」(18番までのミサとクレドなどが収められた曲集)のミサ曲のメロディをどこどこ借用して、日本語を当てはめた形なので、明確な拍子やリズムがありません。お手本の音源に近い歌い方にするように考えていますので、ぜひ音源を聴いておいてほしいと思います。

BとCのミサ曲は、普通の西洋音楽の文法で書かれています。こちらもおいおい練習していくつもりです。



◆ミサ曲の音源はこちらのQRコードから聴けます。↓  
◆11月以降再び新型コロナウイルス感染者が増え、クリスマスミサは予約制を取らざるを得ませんでした。信徒の皆さんのご理解とご協力に感謝申し上げます。

◆年末年始のミサ、事務室休業日について

12月31日(土)17時、1月1日(日)9時、10時半、ともに神の母聖マリアの祝日ミサです。予約不要です。

事務室は12月28日(水)から1月5日(木)まで休業です。但し、12月31日午後、1月1日午前中は開室します。

◆サコム(海外宣教者援助会)は今年度末をもって活動を終了します。長年、吉祥寺教会ゆかりの海外宣教者への物心両面の支援に力を尽くされたグループです。復活祭号で、その活動を振り返っていたたく予定です。

◆シャローム次号は2023年4月9日復活祭に発行予定です。

(広報T)

■ 売店と事務室の受付時間 (通常) ■

火、水、金、土、日 9:30~17:00

※ 定休日：月、木曜日、祝日

(受付時間は、変わる場合があります)

売店は当面土、日のみ開店

■ ミサ時間案内 (通常) ■

主日：9:00 / 10:30

\*第1 15:30 (英語)

第3 15:30 (英語又はタガログ語)

土曜：17:00 (主日のミサ)

週日(火~金)：6:50

■ 教会報 シャローム ■ NO. 505 2022年12月24日発行

カトリック吉祥寺教会 教会委員会 広報

〒180-0005 東京都武蔵野市御殿山1-7-8

TEL 0422-44-0181/FAX 0422-44-0180 URL ▶ <https://svdtokyo.jp/>

教会維持献金振替口座 郵便振替：口座番号/00120-1-106084

加入者名/カトリック吉祥寺教会

